

言葉の移り変わり

言葉は人の行き来で伝わっていきます。田辺市の方言は、都があった京都方面から熊野古道を通じて伝わった関西系の方言や、江戸方面から材木などの交易を通して伝わったと思われる本宮地方の関東系の方言などもあり、発音もそれぞれ異なります。昔は人の行き来もゆっくりで、言葉も長い時間をかけて地域特有の言葉や発音になりながら方言となっていました。

かぼちゃの呼び方を調べてみました

16世紀に、カンボジアに寄港したポルトガル船が、豊後の国（大分県）に漂流した際にかぼちゃが持ち込まれました。

かぼちゃは、ポルトガル語で *abobora* と言い、それが語源となって *ぼうぶら* として田辺の山間部にも伝わったそうです。

しかし、田辺に *ぼうぶら* がたどりついた頃には、京都では中国の南京を通して来たものとしてかぼちゃを *なんきん* と呼ぶように。現在では関西地方で使われています。

そして「カンボジア」がなまったと言われる *かぼちゃ* も伝わっていました。

もともとは *ぼうぶら* が標準語で、*なんきん* や *かぼちゃ* が方言だったそうですよ。

(参考 田辺の方言「大阪化」 富山大学調査)



紀南文化財研究会
宮本 恵司さん

変わりゆく方言
方言を研究していると、人々の行き来は単に物を運ぶためだけでなく、文化や言葉も伝えていくことが分かり、当時の文化を知ることにもつながりました。
昭和57年に調査した時点では、田辺で使われている言葉の中で純粋な田辺地方の方言は、たったの2〜3%だけでした。
現在はインターネットの普及などで言葉の伝わり方が速くなり、言葉はどんどん変わっていっています。そのため私は少しでも方言という文化を書面や音声で残していきたいと思っています。
皆さんもどんどん変わっていく方言に触れてみませんか。

田辺の方言を研究されている、紀南文化財研究会の宮本恵司さんにお話を伺いました。



特集

たなべの方言ってほっこりするね

私たちが何気なくしゃべっている言葉。実は地域特有の方言が混ざっているかもしれません。

他の地域の人と話して言葉が通じなくて、恥ずかしかったー！からかわれたー！なんて経験がある一方で、地元民にしか通じない言葉で会話するとほっとすることも。

このお正月は方言で田辺を感じてみませんか？

「ほっこり」も方言!?
「心温まる」、「癒やされる」という意味もありますが、京ことばでは「疲れたからほっとしたいな」という時に使われる言葉だそう。各地に伝わっていく中で「心温まる」に変わっていったと言われています。



齊子さん

関さん家族（本宮町）

方言って面白いね 関 齊子さん

滋賀県出身で、結婚を機に本宮へ来て8年になります。世代によって日頃から使う方言に違いがあるのか、みんなでお義父さん、お義母さんの発言に「ん？」と思うことがありました。その場では聞けず、家に帰ってから夫に聞いていたのを覚えています。

子どもたちが滋賀へ行ったときには、滋賀のおじいちゃん、おばあちゃんとたくさん話してから本宮へ戻ってくるので、1週間ほど、イントネーションが違うこともあります。また、本宮は移住されてくる家族が多く、子どもたちは保育園でいろいろなイントネーションの言葉を聞いているので、家で話をするときも混ざっているような気がします。

私自身も地元の友達と話をするときは、自然と滋賀の言葉になっているのが分かるので、話をする相手によっても言葉が変わるのが面白いですね。

子どもたちも本宮の方言をしゃべるようになるのかなあ。これからの成長が楽しみです。



『なっとう=どんなに、どう』
「なっとうする？」納豆？.....
これは田辺の方言の代表的なものかも!!
本当によく聞きます。

平野 晶子さん
愛媛県出身

故郷の方言を紹介!
だらい=おもしろい
・女性は「だらいね」、男性は「だらいの」
という言い方をよくしています。

『いぬ=帰る』
最初はなんて言っているのか全く分からなかったことを覚えています。

三河弁
大橋 正義さん
愛知県出身

故郷の方言を紹介!
けった=自転車
じゃん・だら・りん=～
だよね・～でしょう・～
しなさいのようなニュアンスで使います。

『ごんぱち=イタドリ』
広島では、イタドリのことを「かっぼん」と言います。いろいろな呼び方があるって面白いですね。

山根 三明さん
広島県出身

故郷の方言を紹介!
たう、たわん=届く、届かない
あおじ=青あざ

『まくれる=落ちる』『よわる=困る』
林業の仕事をしているのですが、職場の人が現場で「まくれた」と言ってるのを聞きます。

庄内弁
故郷の方言を紹介!

んだ、んだの=そうだ（相づち）
けー、くー=食べる、食べる
まま=食事

長坂 遥斗さん
山形県出身

榎本 恵さん
埼玉県出身

故郷の方言を紹介!
～だべ=～でしょ
～け? =～ですか?

『のーら=～なあ』
『ひゆる=寒い、冷える』
龍神では「～だよなあ」の代わりに「のーら」と使う人が多いです。最近は2つを合わせて「のーら、ひゆるのう」という会話をよく聞きます。

「田辺の方言覚えたよ！」 「私の故郷の方言も紹介するね」

『かー=適当に』
『どしゃんばら=草むら』
「かーやっというよ」や、「今日はどうだった?」という質問に対して「かー」と答えていました。使っている場面が様々あり、習得が難しかったです。

道下 優海さん
静岡県出身

故郷の方言を紹介!
おぞい=汚い、古い
キーキー=発泡スチロール
・静岡の漁師町で、よく漁師が「キーキーの箱」と言っていました。

『～しよし=～しなさい』
小さい子どもとかに対して「～しよし」と言っているのがとてもかわいくて、優しい感じがして好きな方言です。

五島弁
故郷の方言を紹介!

ざーま=とても
みじょか=かわいい
例) ざーまみじょかー。

久高 ゆいさん
長崎県出身

方言でコミュニケーション

本宮では挨拶代わりに「おーきにー」!?

本宮では、電話に出たときに「もしもし」ではなく、「おーきにー」と言うそうです。また、近所の方に会ったときにも「おはよう」「こんにちは」代わりに「おーきにー」と。知らない人からすると「なんのお礼かな?」と思いますよ。でも温かさや優しさを感じることもでき、良い文化だなと思います。

田辺の方言って優しい

田辺市へ移住されてきた方に方言についてたくさん話が聞けました。やはり最初は言葉が分からず苦労することもあったそうで、方言を勉強したという方もいらつしました。

また、田辺の方言の印象として、「優しい感じがして好き」という感想がたくさんありました。中には「怒られていたような感じがした」と話された方もいましたが、今となっては親しみがあり、自分も田辺の言葉を話していると、笑顔で話してくれました。

知れば知るほど 深まる関係

田辺市には、様々な地域から移住されている方がいることが分かりました。故郷の方言もいくつか教えていただきましたが、方言って難しいなとつくづく感じます。でも、お互いがそれぞれの地域の方言を知っていると、話をするにも、コミュニケーションを取るにも楽しくなるかもしれませんね。



おばあちゃんが「べっこう」とかよく言ってた！

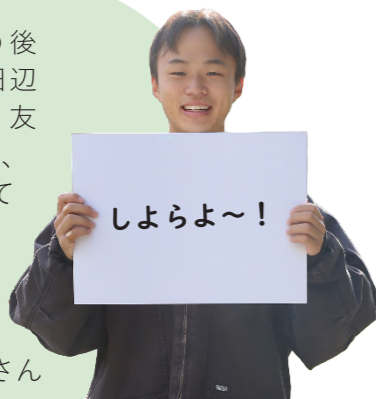
方言集を見て談笑する二人

「これって方言だったんだ！」

私の方言エピソード

今、私たちが使っている言葉が方言であるかどうかは、普段の生活では気づきにくいものです。そこで、市出身の和歌山大学の学生さんに、田辺では通じたのに、大学では通じなくて、実はこれが方言だと知った言葉を紹介してもらいました。

「よー」と言葉の後ろにつけるのが、田辺の方言だと知らず、友達に真似をされたり、面白がられたりしていました。



野田 晴生さん



松田 巴菜さん

思わず注意したくなった時の鉄板の言葉だと思えます。「しさがす」は使い勝手の良い表現なので、ついつい口から出てしまいますね。



谷本 さくらさん

「しか」って初めて聞いたと驚かれる場面も。これ以外にも「にえた」、「ひやこい」は、田辺ならではの方言だと感じます。

大学から友達と帰っているときに自然と出た言葉です。友達に「つくって何？」と言われて、「つく」の意味が通じなかったことに驚きました。



大矢 尚宙さん



和歌山大学 教育学部 准教授 澤村 美幸さん

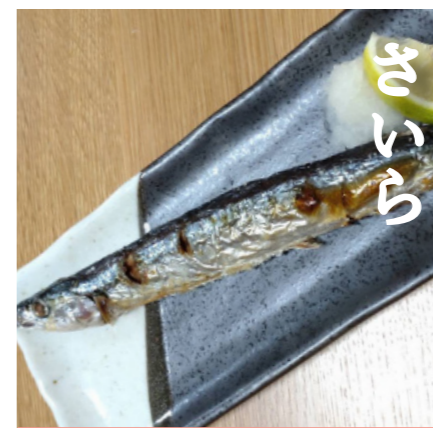
今の時代だからこそ方言の温もりを感じて
山地が多い和歌山県では、人の移動も穏やかであったことから古い言葉が残しやすい傾向にあります。紀南地方には「人がいる」ことを「人がある」と表現することがありますが、それは平安時代からの表現が受け継がれているという一説があり、ここから方言が古くから伝わってきていることが分かります。
その一方、現代では標準語が使われることが多く、地方の方言が使われなくなってきたりします。しかし、方言で会話することは、同じ言葉が理解できるということから、人同士の連帯感を生むことにもつながります。
方言が時代とともに移り変わっても、方言で話すことは温もりや安心感が生まれるかけがえのないものであり、これからも大事にしたい文化の一つです。



壊れる

使い方 バケツ、もじけた！

物をねじる意味の「振る」が基となった言葉だそう。意味として原型でないことから転じて「壊れる」の意味になったとか。



さんま

使い方 さいらが美味しい季節

さんまを干したものをこのように呼び、大阪へ供給していた流れで、田辺へも伝わったのではとされている。「さえら」と呼ぶことも。



私たち

使い方 あがらが一番！

私という意味の「吾」に助詞の「が」がついた言葉。また昔の京ことばや公家言葉が受け継がれているという説もある。

全部知っているとなかなかの通？

たなべ方言アラカルト

6つの方言の意味や使い方、由来について紹介します。皆さんはどれくらい方言を知っていますか？



餅

使い方 あもの食べ過ぎに注意！

京ことばでこのように呼ばれており、あんもちが転じた表現。江戸時代・明治時代の幼児語とも言われている。



片付ける

使い方 おもちゃあらけよ〜

紀中で「あらくる」で掃除するの意味がある。他にも同じ意味で「よじめる」ということもあるそう。



とうもろこし

使い方 今年のなんばは甘い

江戸時代に南蛮（ポルトガル）から伝わってきたため、この呼び名に。市の名物「なんば焼」もこの由来から。